

令和7年度 前期始業式 校長挨拶

新2・3年次の皆さん、おはようございます。

本日より新学期がスタートします。そのスタートにあたりお話をします。

3月の修了式の際にお話しした、写真家の星野道夫さんのエッセイからの一文を2つ、引き続き紹介します。

混沌とした時代の中で、人間が抱えるさまざまな問題をつきつめてゆくと、私たちはある無力感におそわれる。それは正しいひとつの答えが見つからないからである。が、こうも思うのだ。正しい答えなどはじめから存在しないのだ、と。そう考えると少しホッとする。正しい答えを出さなくてもよいというのは、なぜかホッとするものだ。しかし、正しい答えは見つからなくとも、その時代その時代でより良い方向を模索してゆく責任はあるものだ。 『ノーザンライツ』

きびしい冬の中に、ある者は美しさを見る。暗さではなく、光を見ようとする。キーンと張りつめた厳寒の雪の世界、月光に照らされた夜、天空を舞うオーロラ……そして何よりも、苛酷な季節が内包する、かすかな春への気配である。それは希望といってもよいだろう。だからこそ、人はまた冬を越してしまうのかもしれない。

きっと、同じ春が、すべての者に同じよろこびを与えることはないのだろう。なぜなら、よろこびの大きさは、それぞれが越した冬にかかっているからだ。冬をしっかりと越さないかぎり、春をしっかりと感じることはできないからだ。 『長い旅の途上』

「混沌とした時代の中で、より良い方向を模索してゆく責任」を果たしていくために、「自分の歩もうとする人生にどんな光を見ようとするのか」「自分が春のよろこびをしっかりと感じるために、何をすべきなのか」を考えて学校生活を過ごしてほしいと思います。学校生活のかけがえのない「時間（とき）」の積み重ねは、「いつか、希望という春の美しい光」を見るためのものかもしれません。

「SOMEDAY」という佐野元春さんの曲があります。

Happiness & Rest 約束してくれた君 だからもう一度あきらめないで
まごころがつかめるその時まで SOMEDAY この胸に SOMEDAY
ちかうよ SOMEDAY 信じる心いつまでも SOMEDAY

この楽曲は1982年にリリースされましたが、多くのアーティストがカバーしたり、CMで流れていたり、皆さんも聞いたことがあるかと思います。私が初めて聞いたのは深夜ラジオで女性パーソナリティーがカバーしたものでした。今でも時々、ふと聴きたくなります。その時々で「いつか、きっと」があるんじゃないかという、佐野さんのコメントには共感できるものがありました。めげそうになりながらも、「いつか、きっと」と信じながら自分の想いを紡いでいくスタンスを持ち続けることが大事なのかなと思います。

皆さんは、本校を卒業すると、そのときから、よき社会人であることを期待され、そして、自立した人生を歩むこととなります。そこには、自らに課せられた責任と役割を成し遂げ、何より自分の存在価値を表現していく生き方をすべきであると考えます。どうぞ、この学校生活において、たくさんのことに挑戦し、いろいろなことを試してみたいと思っています。そしてその挑戦に「深く感動」してほしいと願っています。

新しい所属クラスが発表されました。皆さんにはそこでの新たな出会いを大切にしてほしいと思っています。高校卒業後、また、何気ない日常の中で、ふと振り返ったとき、「自分の学校生活の中で出会ってきた人が、いつかあなたのよい思い出になるかもしれない」という気持ちを持ってほしいと思います。そして、その思い出を決して悲しいものにしてほしくないと思っています。皆さんには、他者を思う、優しく温かい「寛容な心」を持ち合わせながら、ぜひ「いじめは絶対にしない、させない、許さない」という意識を持ってほしい。皆さん一人一人が楽しく過ごす素敵な学校生活にしてほしいと願っています。

今日の午後に第51期生の入学式が行われます。上級生として、後輩となる新入生に温かい歓迎の気持ちをもって接してあげてください。そして、本校の伝統を紡ぐ仲間として、一緒に盛り上げてほしいと思います。

令和7年4月8日

市立札幌清田高等学校

校長 三 関 直 樹